

毎 日 歌 壇

米川千嘉子 選

「オイ夫才背を叩いても知らんぷり 生き甲斐だった藝を閉じたり 高槻市 本宮 菜葉

△評▽学習塾で出会った多くの生徒たち。上句で思ひ出されている生徒も印象深い。そのかたくなさもいとしく見守ったのだ。ヘルニアでくの字に曲がる二人なりくくを唱えてスパー巡る 下関市 山内けい子

△評▽夫婦とも腰を曲げての買物となった。「へん」は「九九」であり「苦苦」？受話器越しに告げられるまた泣いてたおわたしが忘れたわたしのこと 三鷹市 菅原 海春

真実を言ふのに時間かけぬひとと大谷選手は然ういふ人間かも 横浜市 大建雄志郎

ファミレスを親より先に飛び出す子eスポーツを習いに行くと 国立市 佐藤 建

根菜は人の形になるとよくSNSに上がっています 枚方市 久保 哲也

いつまでも断捨離できぬ家族写真見れば愛憎に苦しみ抜くに 藤沢市 井上 渚

草取りは臆想だからという君に絶え間なく湧き出る庭の草 碧南市 江原 冬莉

スープを見て「えーこれだけ」と叫び出す五歳の吾子の初フルコース 守谷市 久保田洋二

従兄弟より届きし果実の思ひ出にデイの書道で「柚子」を選べり 千葉市 小池 榮

加藤 治郎 選

誰にでも微糖のようなささきまで接する君が無糖になる日 札幌市 住吉和歌子

△評▽君はかすかに甘いやさしさで他者と接する。その気遣いが負担になったのか。感情を失ってしまうのだ。比喩がうまい。チェルシーを買ひに走った店で見たまぼろしあれはきつとシモンズ 東京 福島 隆史

△評▽チェルシーは販売停止に。シモンズはCMソングを歌った。昭和の甘い曲だ。ポールペンペちとおこしてメモをとるべちべちとたざせたりもして 東京 富見井高志

びくドンの珈琲パフェには白玉がみつも入っていて緊張する 所沢市 齋藤 小夏

テレワーク肩毛がないのはご愛嬌 背後に映る旦那も許せ 東京 吉川 黎

大人らしいザルツブルクの「ザ」の音よりハフスブルクの「フ」が楽しくて 名張市 さるすべり

恋人ら冷えた部屋にて汗をかきひそかな星の気配に怯え 横浜市 大原 香花

あなただって夕暮れだった 沈むとぎわしたしまるで裸眼にさせて 長岡市 三月 とあ

中原中也賞を夢見た頃は遠くなりいま本格的な中年少女 直方市 大石 聡美

カラオケとモッコウバラとアップルパイ全部私のお気に入りです 茅ヶ崎市 戸川 香織

水原 紫苑 選

純んだチューリップから目を逸らす逃れられない崩壊だから 柏市 遠野 鈴

△評▽開花こそ崩壊であるという啓示が訪れる瞬間、それが詩人の春かもしれない。方舟に乗ることはなく岬へと駆けていく青い眼をした馬は さいたま市 雨谷 詩穂

△評▽箱舟に乗って守られることなく、岬へ向かう馬の、青い目に映る青い海。鴨川は夜もわたしを光らせて 悩めるって特権でしよう？ 京都市 よだか

浮上してひかりの呼吸きみというながい潜水時間のあとに 札幌市 鈴木 精良

夢の中ごたごたであったあたしたちの声が少しずつ擦れゆく春 横浜市 砂月 七

ひつたりと一千年の濃さになる夜桜つつす水晶体が 横浜市 森山 緋紗

スギ花粉のひとつひとつもわたくしもみな細胞でみな死にかけて 千葉市 芍 葉

暗黒の舞踏はつつく街路樹のすべての存在意義をリズムに 横浜市 安西 大樹

身ひとつでアクアリウムに引越してきみにもきつと恐れはあった 松本市 飛 和

顛顛に掠めて当たる花びらは来世で私の父として会う 東京 榎本 ユミ

伊藤 一彦 選

列をなすチョコ売り場にて週末のラグジュアリーなご褒美を買っ 八潮市 たにー

△評▽ご褒美の「自分チョコ」。列をなしているというからプームなのだ。ささやかなラグジュアリー。巧みな自画像の一首。ネモフィラの深く優しく清き青 花言葉は「あなたを許す」 福岡市 川波 麗

△評▽きつとなかなか許せない相手だったのだ。上の句の「青」の描写が生きている。「甲種合格」背中をポンと叩かれて夫に湿布を貼ってもらひぬ 堺市 梶田有紀子

戦中はお金を置いて食料を持って逃げたと白寿の祖母が 群馬 金子 歩美

新しき白衣に誇りは縫い込まれ母が働く春の薬局 札幌市 住吉和歌子

戦争で更地になった街を見て算盤弾く建築会社 熊本市 貴田 雄介

ハンマーを持てばすべては釘に見え核を持つたらどうなるだろう つくば市 小林 浦波

犬よりも恐れを感じ距離を取る無自覚に引くスニーカーに 南魚沼市 木村 圭

暖かき日々の始まり告げること三人そろってアイスをかじる 福岡市 中原 晶子

新緑にう過ぎれ光は美しく女優の気分でハンドル握る 大垣市 松田早百合

投稿規定 はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051 (住所不要) 毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生 (希望選者名) 係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(https://mainichi.jp/kadan-haidan/)でも受け付けています。他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。

